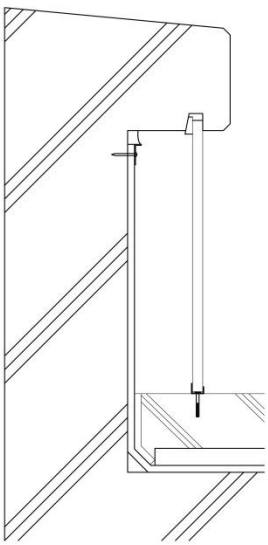
立上り防水保護板
施工手順書

エフグード

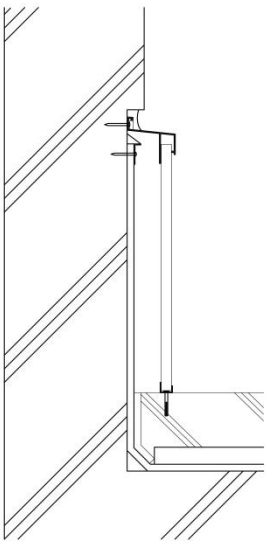
Ver3.2026.04

T-1工法



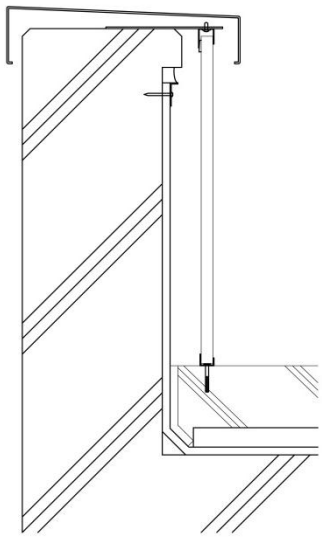
一般アゴ下タイプ

TB-1工法



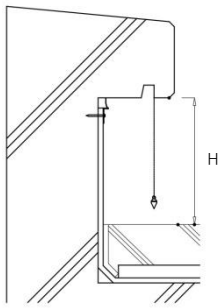
アルミ水切
BF-70使用タイプ

TC-1工法



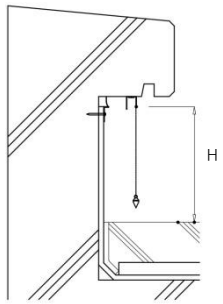
アルミ笠木下
BH-150使用タイプ

T-1工法（一般躯体アゴ下タイプ）



T-1工法

図1-1



T-2工法

図1-2

取付前の確認

・保護コンクリートは打設後3日以上の養生期間を置いてください。
・保護コンクリートの厚みは60mm以上としてください。
・ボードを挿し込む目地を確認してください。※底面20、深さ15より大きい事。
　小さい場合は上部レールを取り付けてください。(T-2工法)

墨出し・取り付け

①上部取付溝より下げ振りを10m間隔程度で降ろしマーキングして下部レール(C-1018)の取付位置を墨出ししてください。

②下部レールにΦ6mmの穴を開けてください。
　2mで7穴320mmピッチ程度
　(C-1018、t=1.0　15×18×10　L=2000)

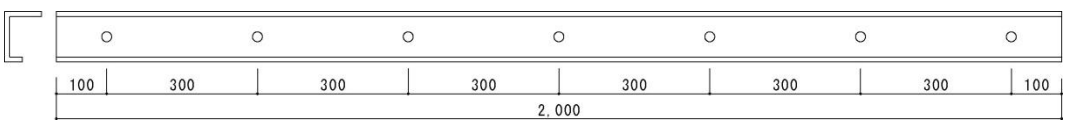


図1-3

③緩衝材からのへり空き寸法30mm(アンカー芯33mm)以上確保して、コンクリートにアンカーの下穴としてΦ5mm、深さ40mmの穴を開けてください。
　ネイルプラグN5×35(Φ5mm・首下35mm)にて下部レールを留め付けてください。
　(コーナー部より始めてください)

④Tパネル(ラムダボード)をHより10mm程度大きく、カットしコーナーから取り付けてください。

⑤ガタつかない様に上部目地とTパネルの隙間にバッカー材(C20)をくさび状にカットして押し込んでください。

⑥コーナー部と横引きドレン部にコーナー用アルミアングル(C-0825　t=0.8 L=2000)をカットしてポリウレタン系樹脂接着剤(AT-1000R)で取り付けてください。

TB-1工法（アルミ水切下タイプ）

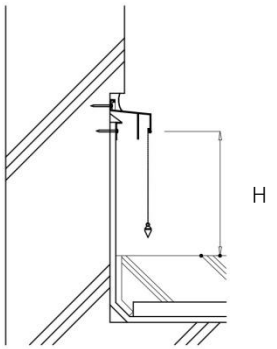


図2-1

取付前の確認
・保護コンクリートは打設後3日以上の養生期間を置いてください。
・保護コンクリートの厚みは60mm以上としてください。

墨出し・取り付け
①水切取付高さ(水切上部)の位置を墨出しします。(BF-70)

②水切本体に下穴Φ6mmの穴を開けてください。

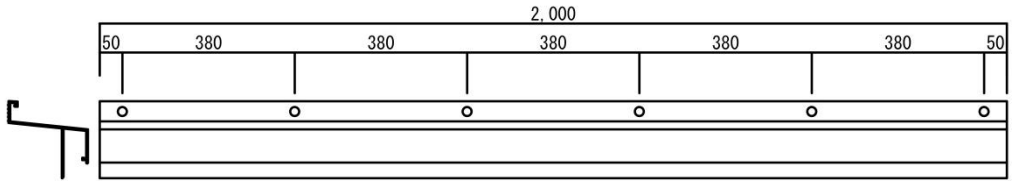


図2-2

③水切(BF-70)を出入り・通りを調整しながら　コーナー部からネイルプラグN5×35(Φ5mm・首下35mm)にて留め付けてください。(下穴 φ5mm 深さ40mm)

④水切より下げ振りを10m間隔程度で降ろしマーキングして下部レール(C-1018)の取付位置を墨出ししてください。

⑤下部レールにΦ6mmの穴を開けてください。
2mで7穴320mmピッチ程度
(C-1018、t=1.0　15×18×10　L=2000)

⑥緩衝材からのへり空き寸法30mm(アンカー芯33mm)以上確保してコンクリートにアンカーの下穴としてΦ5mm、深さ40mmの穴を開けてください。
ネイルプラグN5×35(Φ5mm・首下35mm) にて下部レールを留め付けてください。
(コーナー部より始める)

⑦Tパネル(ラムダボード)をHより15mm程度大きくカットしコーナーから取付けてください。

⑧コーナー部と横引きドレン部にコーナー用、アルミアングル(C-0825 t=0.8 L=2000)をカットしてポリウレタン系樹脂接着剤(AT-1000R)で取り付けてください。

TC-1工法（アルミ笠木下タイプ）

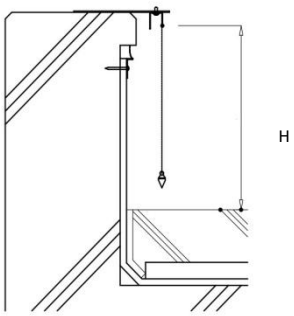


図3

取付前の確認

・保護コンクリートは打設後3日以上の養生期間を置いてください。
・保護コンクリートの厚みは60mm以上としてください。

墨出し・取り付け

①パラペット天端にTパネルの取付位置を考慮してボードホルダー(BH-150)のアンカー位置を墨出ししてください。
※450mmピッチ以内

②ボードホルダーのアンカー位置に下穴を開けてください。
(Φ8mm、深さ60mm)

③ボードホルダーをコーナー部より
ナイロンプラグアンカーB-M8Wにて留め付け、各コーナー間に水糸を張り中間部のレベル調整をしながら取り付けてください。(U字スペーサー使用)
※アンカー上部に防水層に合った材料でシーリングしてください。

④ボードホルダーに上部レール(JB-18　t=1.0　25×20×20　L=2000)をステンレステクスビス(NB-07・φ4×10)にて取り付けてください。

⑤上部レールより下げ振りを10m間隔程度で降ろしマーキングして下部レール(C-1018)の取付位置を墨出ししてください。

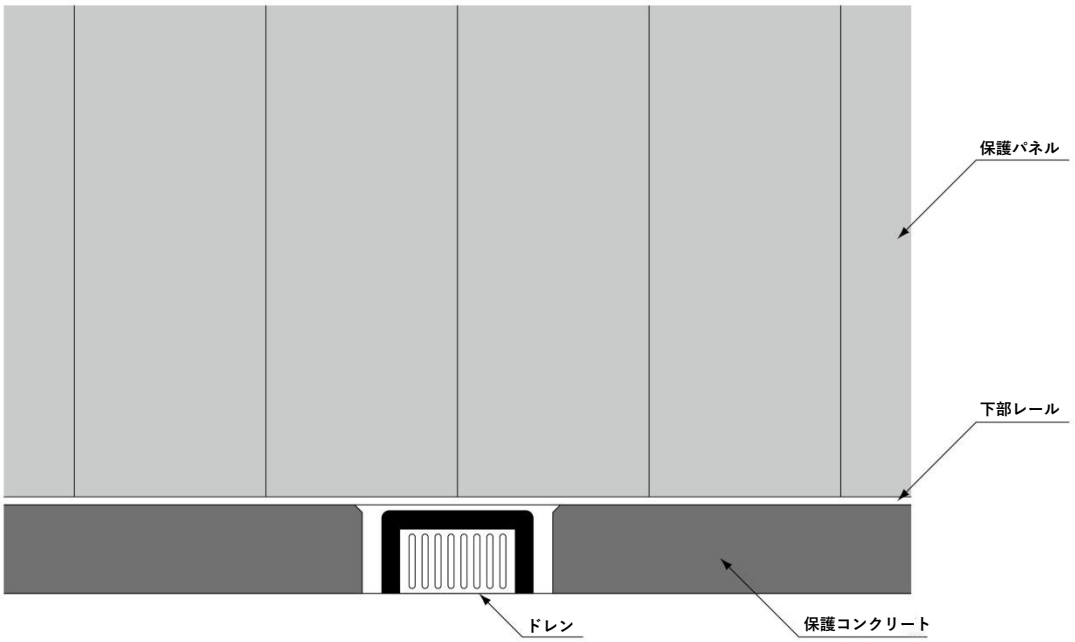
⑥下部レールにΦ6mmの穴を開けてください。
2mで7穴320mmピッチ程度
(C-1018、t=1.0　15×18×10　L=2000)

⑦緩衝材からのへり空き寸法30mm (アンカー芯33mm)以上確保して、コンクリートに下穴としてΦ5mm、深さ40mmの穴を開けてください。
ネイルプラグN5×35(Φ5mm・首下35mm)にて下部レールを留め付けてください。
(コーナー部より始める)

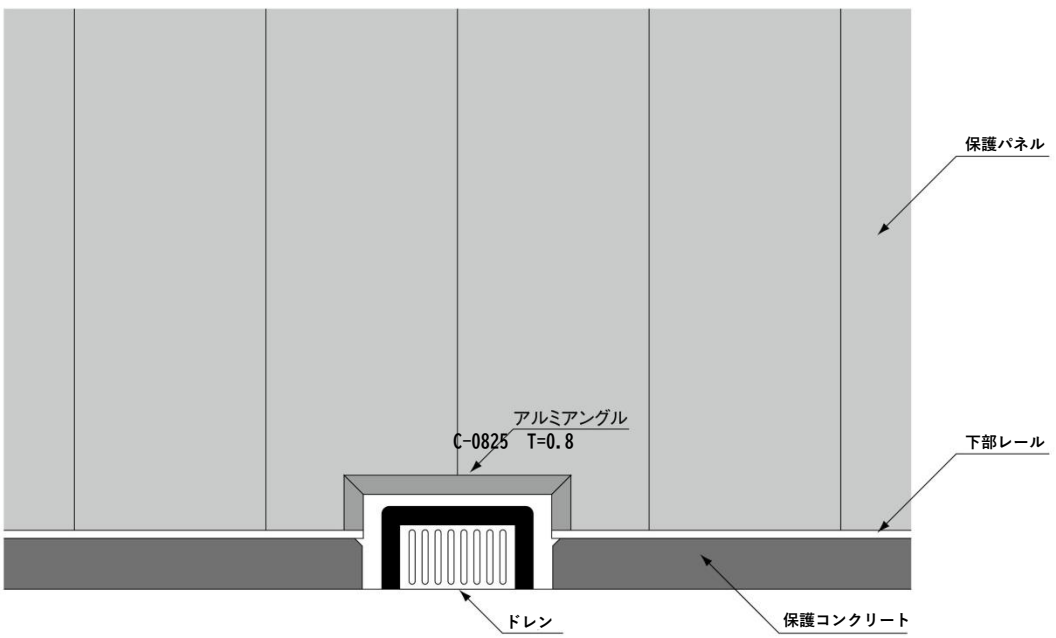
⑧Tパネル(ラムダボード)をH+10mm程度大きくカットしコーナーより取り付けてください。

⑨コーナー部と横引きドレン部にコーナー用アルミアングル(C-0825 t=0.8 L=2000)をカットしてポリウレタン系樹脂接着剤(AT-1000R)で取り付けてください。

ドレン廻り納まり例



保護板欠込みなし



保護板欠込み

図4

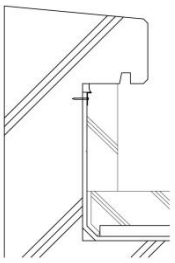
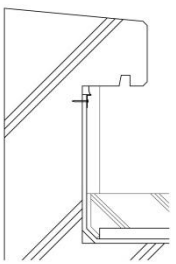
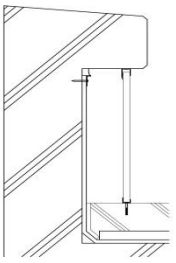
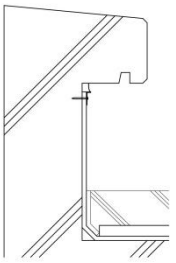
防水層の保護

防水層は字のごとく『水の侵入を防ぐ』層(膜)を作ります。
建物の設備や仕上げ材は交換できますが構造体は困難です。
構造体の劣化は建物の寿命を縮めることになります。
防水層は建物に必要なものです。
防水層も経年劣化により、ひび割れや隙間を生じます。
劣化を低減させる保護材が建物の健全な使用には必要となります。

防水層の保護仕上げ

平場(床)部	現場打ちコンクリート、アスファルトコンクリート、 コンクリートブロック類、砂利、セメントモルタル、 ウレタン舗装、仕上げ塗料
立ち上がり部	現場打ちコンクリート、レンガブロック積み、 セメントモルタル、ボード類、仕上げ塗料

平場部現場打ちコンクリートと立ち上がり部の保護仕上げ

	コンクリート 仕上げ	ラスモルタル 仕上げ	保護板	砂付ルーフィング
				
特徴	保護材としては優れているが工程が長い	保護材の厚みが取れない場合に採用	乾式工法 平場のコンクリートは必要	露出工法の為、耐衝撃性がなく熱や紫外線による影響を受ける
施工後の問題		モルタルのひび割れ、剥落	パネルの割れ、飛散	防水層の垂れ、膨れ 外傷を受け易い
立上り部の改修性	コンクリートの撤去は困難	モルタルの撤去は困難	ボードの取り換えは容易	防水層の劣化の為、防水層撤去後の改修となり困難
工期	非常に長い	長い	やや短い	短い

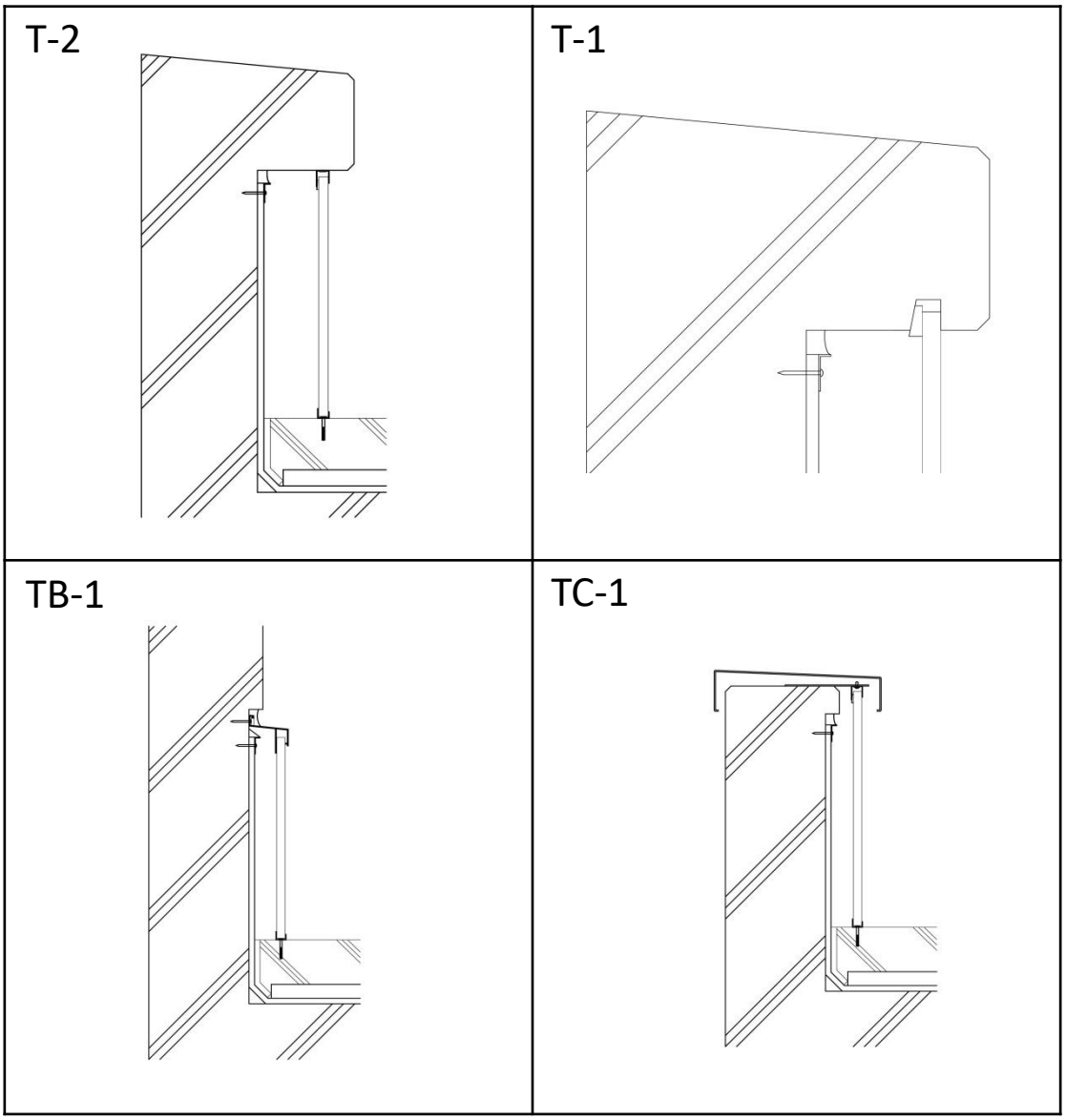


図5

保護板工法の注意点

保護板を設置するための受け材としてレール部をアンカーで固定してください。
立ち上がりからレールまでの距離が近くなる場合があります。
コンクリート端部の縁空きが小さい場合、保護板に対する風荷重や衝撃でレールの固定部が破壊され、保護板が飛散するような事故が発生することがあります。
緩衝材を薄くすることでアンカーの縁空きが確保できます。

緩衝材について

緩衝材は平場(床)部の現場打ちコンクリートの熱伸長を立ち上がり部の防水層に影響させないために設置してください。
一般的に緩衝材の厚みは伸縮目地材と同じ幅が選ばれます。
伸縮目地材は公共建築工事標準仕様書(公共建築協会)ではキャップ幅を25mm、緩衝部(本体)を25mmの80%の20mmとしています。
よって緩衝材は20mmでよいと考えられています。
また、伸縮目地材は3m間隔を標準割付としていることより、立ち上がり際の目地(ボーダー目地)を設ければ、立ち上がり600mm程度のコンクリートの伸長は(600／3000)×20＝4となり、5mmの緩衝材でも果たせるものと考えられる。